

景観フォーラム

巻頭言

全世界的に温暖化の現象と考えられるような災害が多く見られるようになりました。日本においても集中豪雨という大雨があちこちで見受けられます。日本のような温暖で四季折々の変化が楽しめるような土地柄は、恵まれた豊かな日本列島という奇跡がもたらしたのではないかと考えておりましたが、昨今の激しい気候現象から推し量ると災害列島と名付けてしまった方が良いのではないかと思います。

さて、先般久々に京都に行ってまいりました。タクシーで京都四条通を東に向かって移動している時、東山があまり見えなくなってしまったなと漏らした時、タクシーの運転手の人が「そうなんです。大文字焼きがビルの上に登らないと見えなくなってしまったのです。」という。四条通の両端は今や高い壁のようなビル群で迫ってくるという、日本の主要都市のどこにでもある風景が京都にもあるということだけです。京都だけが日本の他の都市とは違った時間的経過の中にあったということではないのでしょうか。京都も戦後の経済成長という日本の歴史を経験してきたということでしょう。

京都に初めてきたのは今から半世紀以上前のことです。京都の第一印象は清水寺の舞台から見た黒々とした瓦屋根の群れ群れでした。そしてそれを取り囲むような山々があり京都が盆地であることを証明しておりました。京都は太平洋戦争の戦災にはあっておらず、500年前の応仁の乱以降は大きな災害には見合っていないはずですが。京都・奈良は米軍の深慮の情け？によって、時間が止まったような景観が残されました。ところが、戦争よりもより強い変化をもたらしたものがありません。それが近代化というものでしょう。

景観をまちづくりの観点から考えるとき、私たちは、この近代化という観念がどのようにそこに住む人々を動かしてきたかを深く考えざるを得ません。

NPO法人日本景観フォーラム理事長 齊藤全彦

<日本景観フォーラム2019年度年間スケジュール>

*2019年度とは2019年4月1日⇒2020年3月31日のことです。

2019年

- 4月25日(木) 第1回理事会・総会 於JICA研究所
- 5月21日(火) **第1回景観研究会(東京の景観)** 於JICA研究所
- 6月30日(土) **第1回景観まちあるき(東京都内:谷中)**
- 7月23日(火) **第2回景観研究会(東京の景観まちづくり)** 於JICA研究所
- 8月 夏休み(景観研究自由参加) or 一泊二日で遠方の町並み見学会など?
- 9月24日(火) **第3回景観研究会:** (深川)
- 10月6日(日) **第2回景観まちあるき** (深川)
- 11月19日(火) 第2回理事会・**第4回景観研究会** 於JICA研究所
- 12月17日(火) 忘年会(素敵な飲み屋街)

2020年

- 1月25日(土) **第3回景観まちあるき:** 神社景観(香取神宮)
- 2月18日(火) **第5回景観研究会:** お台場の景観 於JICA研究所
- 3月28日(土) **第4回景観まちあるき** (お台場)

★以上の年間スケジュールは第一回理事会の承認の上実施されます。

景観まちづくりへの取り組み

今回から各地域の景観まちづくりへの取り組みを数回にわたりご紹介いたします。
まずは、小田原市からです。

小田原らしい美しい景観をつくり育みましょう

小田原がめざす景観。それは小田原の特性を生かした美しさをもつ景観です。

- 豊かな自然環境と調和した潤いとやすらぎのある景観
- 歴史的、文化的資源を活用した落ち着きと風格がある景観
- 活性化を促進する快適で魅力的な景観

■景観づくりを進める制度

1 建築物の建築等や工作物の建設等の届出

一定規模以上または重点区域内での建築物の建築等や工作物の建設等は、市への届出が必要です。

2 景観計画の内容に基づく指導・勧告・命令

建物の建築などの際に、景観計画の内容に適合しない場合、市は建築主などに対して指導・勧告・変更命令を行うことができます。

3 景観上重要な建造物や樹木の指定と保存

景観形成を進める上で重要な建造物や樹木を指定し保存します。

4 眺望景観の確保

本市の特徴的な眺望景観を確保します。

5 景観まちづくり等に対する支援・表彰

良好な景観の形成に貢献する活動や団体への支援や表彰を行います。

■景観計画の対象区域



●市域全域

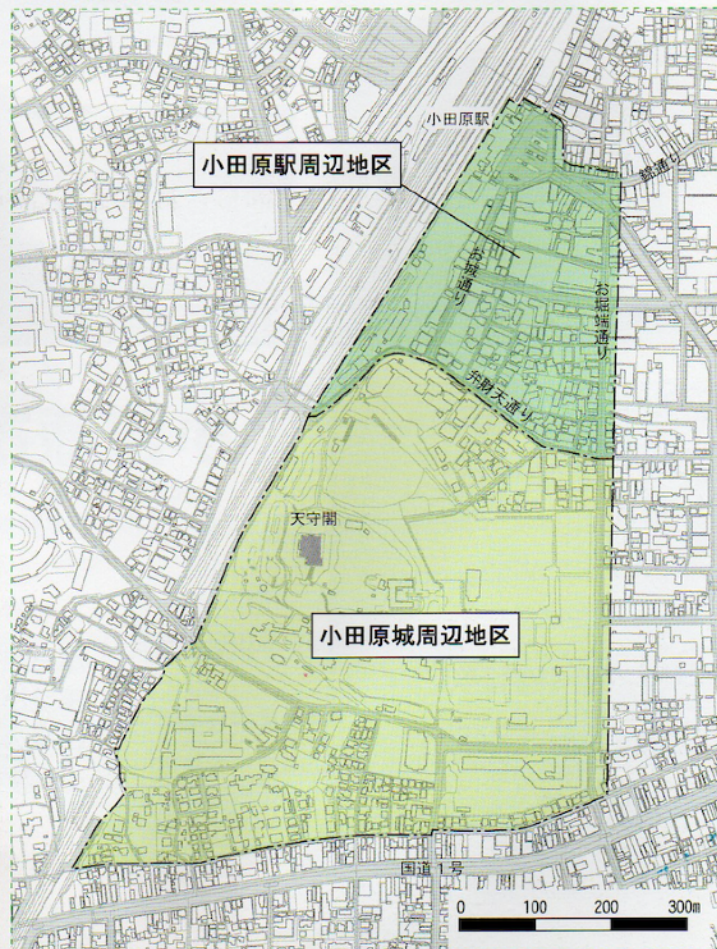
- 商業・業務地 / 住宅地 / 工業地 / 田園 / 丘陵地 / 山・山並みの類型別に景観形成を進めます。
- 駅周辺、大規模な緑地・文化財周辺、幹線道路・鉄道周辺、河川周辺、海辺などは他にも守るべき事項があります。

●景観計画重点区域

小田原の有する貴重な特色が象徴的に現れ、良好な景観の形成が特に必要とされる区域です。

- 小田原城周辺地区（面積約31.1ha）
歴史的風情や豊かな緑による潤いがさらに印象深く感じられる地区。
- 小田原駅周辺地区（面積約10.0ha）
活性化を促進する快適で魅力的な地区。

■景観計画重点区域



建物の新築、増改築、塗替えなどの際はご相談ください

■建築等は景観形成基準に沿ってお願いします

緑や水などの自然、歴史的・文化的な資源や印象的な風景、まちの賑わいや快適な空間…。

景観計画では、その地域の特性やよさを守り、育て、活かすために、それぞれの地域や場所ごとに、建築物の形態、デザイン、色彩、緑化などについての配慮事項や守るべき事項（景観形成基準）を定めています。建物の新築、増改築、外壁の塗替えなどの際には、景観形成基準に沿った工事をお願いします。

●景観形成基準の一例



※上記基準は小田原城周辺地区の基準の一部です。小田原駅周辺地区及びその他市域全域もそれぞれ基準があります。

■色彩によりまちなみの印象は大きく変わります

色彩はまちなみの印象に大きな影響を与えるため、景観計画では、建築物などについて、地形や地域に応じて、避けるべき色や推奨色を定めています。色彩を上手に使い、木々の緑、季節の花々や催事の彩りが映え、豊かな変化が感じられるまちなみ、風格やまとまりのあるまちなみを育みましょう。市ではアドバイザーによる相談制度を設けています。お気軽にご相談ください。

●色彩のシミュレーション



●建物の色彩は穏やかにまとめ、広告物等には深みのある中彩度色を用いることにより、しゃれた雰囲気のマちなみを形成することができます。



●派手な色彩を避け、暖かく穏やかな色彩を使い分けることにより、緑が映える落ち着いた外観を形成することができます。

<LFJブックレビュー 65>

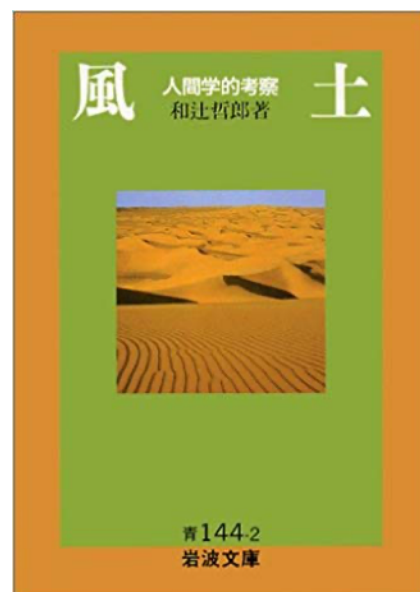
『風土－人間学的考察』和辻哲郎著 岩波文庫 1979年刊

★原書初版1935年刊行

我々が日常生活を送るということは常に時間と空間の中で活動するということである。時間に追われるという生活は日々体験することではあるが、空間に追われるという日本語がないように、われわれの日常生活にとっての空間はあまり意識に上らないようでもある。だが、われわれが風景を望見しているときは、必ずやその心の内部にはこの“空間”が内在しているのではないか。著者の根源的問いかけは「時間性がかく主体的存在構造として生かされたときに、なぜ同時に空間性が同じく根源的な存在構造として生かされないのか」というものである。この問題を著者は“風土”という概念で考察する。

まず、第1章「風土の基礎理論」において、風土という現象は、「歴史と離れた風土もなければ風土と離れた歴史もない」と指摘し、風土の歴史との関係性を強調し、「時間と空間との相即不離が歴史と風土との相即不離の根底である」とし、「風土の型が人間の自己了解の型である」とする。第2章では「三つの類型」としてモンスーン、沙漠、牧場を取り上げ、第3章において「モンスーンの風土の特殊形態」として、シナ即ち中国および日本を取り上げ、日本では台風の性格と日本の珍しさとして日本の気候風土の特色を論ずる。即ち「モンスーン域の人間の構造を受容的・忍従的として把握することができる」とする。「湿潤」の中にある風土は日本を含め東アジア・東南アジア・インドを含めた広大な地域を包含する。その風土の現象としては「彫刻にしる、絵画にしる、建築にしる、その細部の驚くべき豊富さに比べて構図の統一は極めて弱い」となる。即ち「全体としては明白さを欠き、非構造的である」となる。そして、第4章では「芸術の風土的性格」という観点から、アジアとヨーロッパの風土的異質性から文明と文化に現れた形態の違いを比較する。著者は、「同じ人間の本性に根ざした創作力がいかにして“ところ”により異なる芸術をを作り出すか」という問いを提出する。例えば「湿気」が日本を含めた東アジアの特徴とし、「変化に富んだ大気の濃淡」を風景の特色としている。また、ヨーロッパの大気として「北欧の特徴である単調に陰鬱な曇り日、南欧の特徴である単調に晴朗な晴天」などの風土の特徴が芸術に与える影響を論じている。最後の第5章では、「風土学の歴史的考察」として、ドイツにおいてはカントに影響を与えたヘンデルの『人類史の構想』における精神風土学に言及し、その風土学は歴史哲学を発展させたヘーゲルの風土哲学を生む根源的想像力となった。

さて、景観論を論ずるとき、まさにこの「風土論」こそが根底に存在するのであり、「風土論」なき景観論とは歴史を無視した人間存在を論ずることであり、人文科学を成り立たせない無謀な奇策そのものではないだろうか。即ち、人類の「科学」そのものは、まさにこの「風土論」なくして発展しえなかったのではなかろうか。（斉藤全彦）



天地玄黄 NO.21 「さいたまの観光①」

武蔵一宮氷川神社



2,000年以上の歴史をもつといわれ、大いなる宮居として大宮の地名の由来にもなった日本でも指折りの古社。武蔵一宮として関東一円の信仰を集め、初詣には多くの参拝客で賑わいます。また、毎年5月には境内で恒例行事の大宮薪能が開催され、観る者を幽玄の世界へ誘います。

<御祭神>

須佐之男命（すさのおのみこと）

稲田姫命（いなだひめのみこと）

大己貴命（おおなむちのみこと）

<御由緒>

神社の略記によれば、今からおよそ二千有余年前の第5代孝昭天皇の時代に創立し、約1,200年前の聖武天皇の時代に、各国に一の宮の制度が確立されたとき、武蔵国一の宮に定められたと伝えられています。確かな文献では、平安時代中期の延喜5年(905)に醍醐天皇が編纂を命じた法典である「延喜式神名帳」に、名神大社（古来より靈験が著しいとされる名神を祀る神社のこと）として記されています。近年では、明治元年(1868)に明治天皇が行幸、御親祭し、国の鎮守勅祭の社と定められ、次いで明治4年に官幣大社に列せられました。年々の例大祭には皇室よりの勅使が御差遣され荘重厳粛な祭儀が行われます。

また、氷川神社名の社は大宮を中心に、埼玉県下及び東京都下、神奈川県下に及びその数は280数社をかぞえます。

<社殿の沿革>

治承4年(1180) 源頼朝が土肥次朗実平に命じて社殿を再建、文禄5年(1595) には徳川家康が伊奈備前守

忠次を奉行として社頭を残らず造営させ、次いで寛文7年（1667）に徳川幕府四代将軍家綱が阿部豊後守を奉行として社殿の建立をしております。以来幾度の御造営あって、現在の社殿は昭和15年(1940)の竣成で、流造りといわれる神社建築様式です。

<社頭風致>

神社は元神領の大宮公園を控え、広大な境内は約3万坪もあり、古杉や老松は悠久の歴史をしのばせます。参道の長さは中山道の「一の鳥居」から約2km、県道2号ぞいの「二の鳥居」は高さ13mで、明治神宮より寄贈移築され、現存する木造の鳥居では関東で一番大きいとされています。境内には楼門、舞殿、神橋、神池もあり、四季折々に輪奐の美を極めていきます。

<主な行事>

- 1月1日：歳旦祭
- 2月3日：節分祭
- 4月5・6・7日：鎮花祭
- 6月30日：大祓式
- 8月1日：例大祭
- 8月2日：神幸祭
- 12月10日：大湯祭

<利用案内>

- 開館時間 春秋期（3・4・9・10月）5時30分～17時30分
夏期（5～8月）5時～18時
冬期（11～2月）6時～16時30分
祈祷齋行時間（予定）9時～16時（30分毎）

<アクセス>

さいたま市大宮区高鼻町1-407

TEL.048-641-0137

JR「大宮駅」東口より徒歩20分または東武野田線「大宮公園駅」より徒歩15分

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町14-5-502

TEL : 03(3780)3814

FAX : 03(6379)6681

E-mail : info@keikan-forum.com

